

## 第24回インフォメーション・ミーティング 主な質疑応答

Q：配当性向 30%、総還元性向 50%は他行と比べて見劣りしないが、配当利回りを見ると見劣りする印象がある。配当利回り 3%を目指すなどの方針はあるのか。また、株主優待制度は機関投資家から高評価を得られないケースもある。株主優待に充てている部分を配当に充当するような考えはなかったのか。

A：配当性向は 30%以上とした上で、総還元性向 50%を目安にするとしており、必ずしも自己株式取得で総還元性向 50%を実現するものとはしていない。2024 年度に関しては、13 円の配当を考えている。

Q：2024 年度は単体与信費用 20 億円を想定しており、平準化しているとの説明があった。今後も平常時の与信費用は 20 億円程度を想定しているのか。また、金利上昇は与信費用に直結するものではないという認識か。

A：2023 年度に 50 億円程度の予防的引当を計上しており、2023 年度～2024 年度を平均すると 35 億円程度の水準となる。20 億円はご指摘の通り水準としては低いが、足元の倒産増加の傾向もなく妥当性はあると判断している。金利上昇について、足元では無利子融資先を中心に小口の倒産数は増えているが、保全があり信用コストへの大きな影響はないと考えている。

Q：何故このタイミングで頭取に選任されたのか、北洋銀行の強みと課題について、頭取就任の抱負とともに教えてほしい。

A：北海道は今、次世代半導体・GX・特区認定などにより変化の起点になる年と捉えている。金融界もマイナス金利が解除となり、変化していく局面である。変わらなければならない場面で、銀行の社風も変えるということを期待されて選任されたと感じている。当行の強みは財務の健全性の高さ。一方で、弱みは収益性の低さと考えている。

Q：2027 年度 ROE 目標 5%、中長期目標として 8%は、以前の水準と比較するとかなり高い目標設定と思われる。どうしてこの水準を目指すこととしたのか。実現は可能なのか。

A：政策金利が仮に 0.5%まで引き上げられ、年間通じて寄与した場合、100 億円弱のプラス効果が見込まれる。これは ROE 換算すると 2%程度に相当し、ROE5%の達成は十分見えている水準と考えている。更にその先の ROE8%については、次世代半導体・GX・道内での法人個人への貸出や、お客さまへのコンサルティングサービス提供を強化することで目指していく。次期中期経営計画の中で道筋を示していきたい。

(次葉)

**Q：2024年度法人貸出の増加は年率5%を見込んでいるが、この計画は高い目標なのか。来年度以降も同様のペースで伸びていく想定をしているのか。**

A：4月～5月の実績では貸出は計画通り進捗しているが、年率5%の伸びは簡単な数字ではないと思っている。半導体関連融資で言うと、商材が480億円程度まで積み上がってきており、今後はこの商材を実行フェーズに移していく。また、サステナブル関連投融資も2030年度の実行目標5,000億円を2024年度で達成できる見通しも見えてきている。熊本県の半導体事業経済波及効果と融資実績の推移を見ても、事業の進捗とともに融資が増加しており、北海道においても今後事業が進むと加速度的に融資案件が増加すると見込んでいる。成長ドライバー分野、その経済波及効果を北海道全域に繋げていくことが役割と感じている。

**Q：金融・資産運用特区は、銀行のビジネスチャンスにどう繋がっていくのか。**

A：札幌市は、GXと資産運用を絡めた特区申請を行っていることが特徴。特に金融ではGX関連企業に出資する際の「5%出資ルール」を緩和することを要望している。また、投資が行われた時に証券化して販売することも考えられる。その場合には子会社も含め銀行グループ機能が活かされると思っている。

**Q：北海道の資産運用リテラシーについて、変化が期待できるものなのか。**

A：金融経済教育が銀行の重要な役割と認識しており、リテラシー向上のために大学での単位認定授業も行っている。証券化商品の販売も地域のリテラシーが高くないとできない。北海道の金融リテラシーを高めるために、金融経済教育推進機構との連携も含めた動きを行っていきたい。

**Q：無利子融資について、想定以上の返済の背景はなにか。**

A：北海道は国準拠と北海道独自の制度で合計6千万円を借りられる2階建て構造となっていた。2階建て構造は全国で7地域であり、他地域と比べて大きな金額を調達できたことが挙げられる。また、無利子融資支援は、当行の融資シェアを上回る水準で行ってきた。さらに、信用力の高いお客さまが自ら積極的に利用していたこともあり、全額繰上げ返済が多かったことが、主な背景となる。

**Q：次世代半導体関連融資が、銀行のカーボンニュートラルに与える影響はないのか。**

A：半導体事業の消費電力は大きいですが、ラピダス様は経営理念の柱にグリーンを掲げ、グリーンエネルギーの調達を考えている。そのためには、GXの支援として、稼働に向けて動き出している洋上風力発電への支援も着実にやっていきたい。

(次葉)

**Q：株主還元の方針変更の背景を教えてください。**

A：以前の投資家向け説明会で業績連動配当が分かりづらいとのご指摘があった。また、業績連動配当が実施される利益水準になった場合でも、配当性向が30%に到達しないケースがあるとのことご指摘もあった。ご指摘を踏まえ、投資家の皆さまに分かりやすい配当性向に変えた。また、今後の成長投融資の支援に対して適切な自己資本比率を検討し、取締役会の中で議論した上で、方針変更に至った。

**Q：採用強化は中途採用も含めているのか。全体の人員は今後増加するのか。**

A：全体の人員数は増加しない。現在の業務を維持し、質を高めることを目的に中途採用も取り組んでいく。特に専門性が必要な部分に関しては、中途採用で対応しながら、中長期的な持続性を確保したい。

以 上